

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年1月26日

新型コロナウイルス感染後の自己隔離期間

(感染から何日たてば社会に出てよいか?)

【松崎雑感】

オミクロン株の潜伏期間が短く、軽症化しているようなので、感染しても、隔離、休業期間を短くしようという話が出ています。医療スタッフがたくさん感染すると、医療システムが動かなくなるという懸念もあるためでしょう。

国際的には、日本の感染症研データが、この話題に結構影響を与えています。感染症研では逆のデータも発表しているからです。若干ややこしい話ですが、私の考えを含めてご覧ください。医療スタッフの場合、期間短縮により二次感染が起きた場合は、事業者の責任となる場合があります。

新型コロナ感染後の自己隔離期間

(感染から何日たてば社会に出てよいか？

に関する松崎の問題提起)

年末にイギリスでこのような話が出ました

新型コロナ感染後の自己隔離期間を**7日間に短縮**：イングランド

Limb M. Covid-19: Self-isolation after infection cut to seven days in England. **BMJ**. 2021 Dec 23;375:n3137. doi: 10.1136/bmj.n3137. PMID: 34949594.

イングランドの保健社会福祉長官、サジード・ハビード氏は、新型コロナ感染後の自己隔離期間を10日間から7日間に短縮すると声明した。これは人々の日常生活への影響を減らすためである。

このイギリス保健省の新たな基準は12月22日から施行される。ワクチン接種の有無は問わない。イングランドで**新型コロナに感染した人々の自己隔離6日目と7日目（24時間以上の間隔）の迅速抗原定性検査が陰性の場合、自己隔離を終了して良い**というものである。

政府はクリスマス休暇終了後に議会が再開されたときに、イングランドの保健規則改正を行う意向である。それまでは、前記の条件を、自己隔離期間を短縮して良いという適切な根拠として適用する。

ほかの国々では、現状、こうなっています

感染後の自己隔離日数を短くしても大丈夫か？

Mahase E. Covid-19: Is it safe to reduce the self-isolation period? **BMJ**. 2021 Dec 30;375:n3164. doi: 10.1136/bmj.n3164. PMID: 34969702.

国	感染後自己隔離期間
アメリカ	5日
イギリス	10日→提案中 7日（迅速抗原検査2回陰性）
フランス	10日
日本	<ul style="list-style-type: none">• 10日（検査なし）• 提案中<10日（軽快から中1日後検査陰性・軽快から中3日後検査なし）
ニュージーランド	10日（ワクチン完了） 14日（ワクチン未接種）
ドイツ・ヨルダン ブラジル	14日

日本のデータが隔離期間短縮の根拠のひとつを提供した

日本からこのようなデータが発表された

オミクロン株はアルファ株より

- 潜伏期間が0.5日短く
- 95%発症までの期間が1.6日短い

SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統（オミクロン株）の潜伏期間の推定：暫定報告 (niid.go.jp) 国立感染症研究所 2022年1月13日

潜伏期間中央値

アルファ株	3.4日
オミクロン株	2.9日

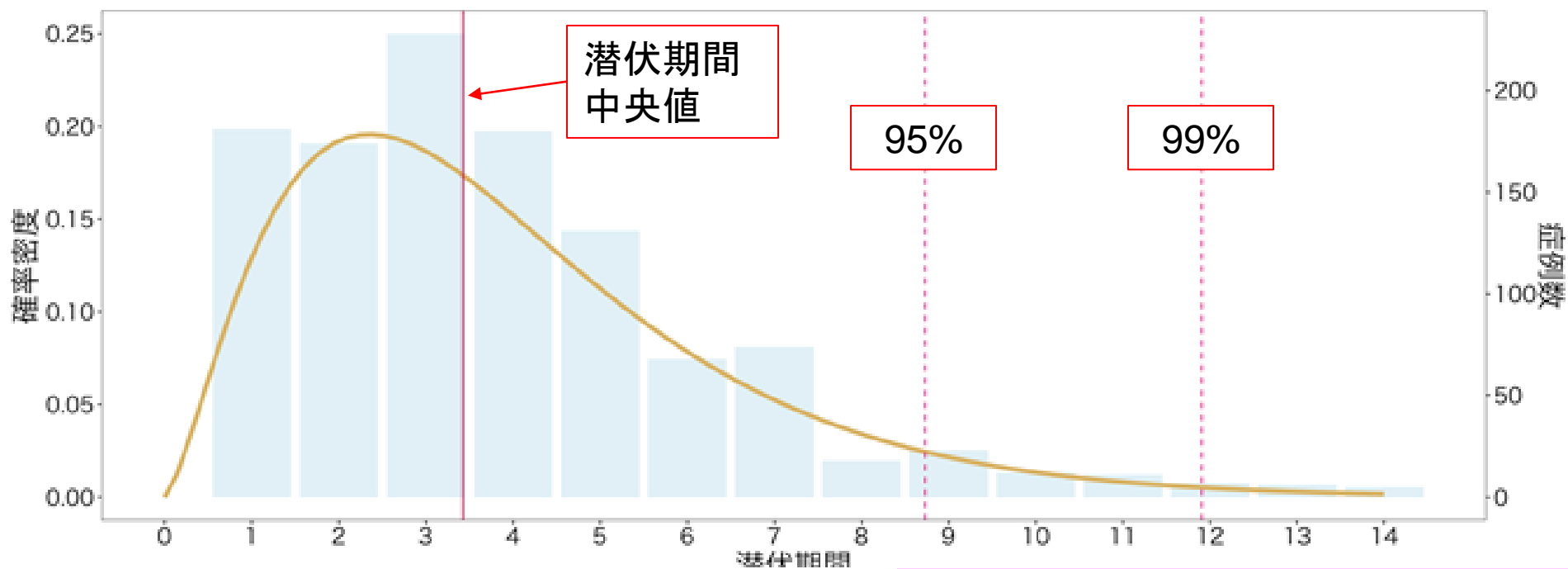
感染曝露から95%、99%が発症するまでの日数：

アルファ株	8.7日、11.9日
オミクロン株	7.1日、9.7日

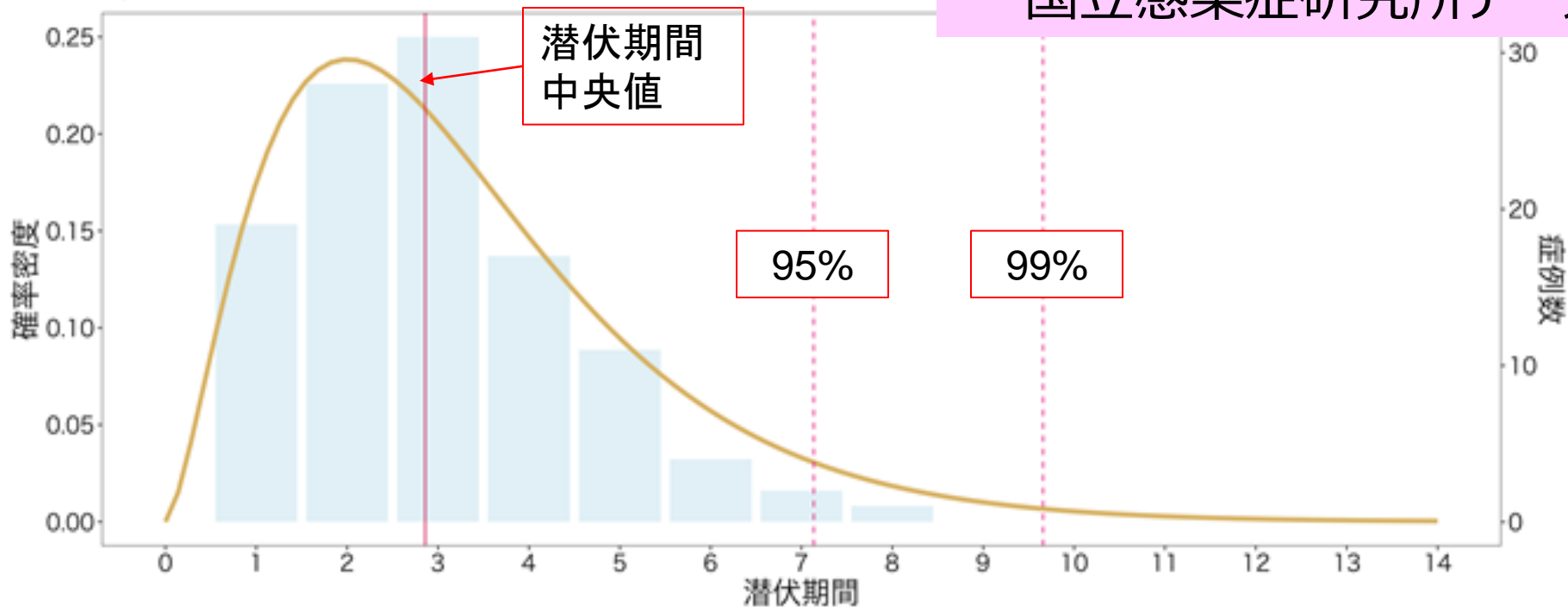
※オミクロンが1~2日早い

濃厚接触＝感染から発病までの日別発症数

アルファ



オミクロン



国立感染症研究所データ

このデータを受けて、感染後の隔離期間短縮が提案されたようだ



感染者の療養解除および濃厚接触者の健康観察の期間の短縮について—オミクロン株の急激な感染拡大を受けて—

[第67回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和4年1月13日）000881512.pdf \(mhlw.go.jp\)](#)

■ **検査陽性者（感染者）**における療養解除の基準

選択1：発症日又は診断日から10日間経過（基本的に検査なしで解除）（また、10日間経過しなくとも**症状軽快後24時間経過した後に2回の検査での陰性を確認した場合等に解除可能**）・さらに感染状況が悪化している地域においては、検査での陰性確認、感染予防策、健康状態の確認等を実施できる**医療機関等の従事者**については、**当該機関の責任において**10日間の健康状態を確認するとともに、下記の方法により就業を可能とする。

選択2：症状軽快から72時間経過あるいは検査での陰性を確認した場合、発症日又は診断日から**5日目**以降において解除

選択3：**症状軽快から72時間経過**、もしくは無症状病原体保有者の場合、診断から72時間経過で解除（可能であれば抗原定性検査にて陰性を確認）

(この感染研の所見に対する松崎解釈) 感染後、最短4日で隔離解除となる可能性あり。オフィシャルな見解と突き合わせてご検討ください。

検査陽性者（感染者）における療養解除 4ケース (松崎解釈)

発症日又は診断日から：

- ① 10日（基本的に検査なしで解除）
- ② 4日（症状軽快後24時間経過した後に2回の検査での陰性を確認、つまり2日目から平熱で、3日と4日の抗原検査マイナスの場合）
- ③ 5日（医療スタッフ限定。結果責任は各事業者が負う。翌日解熱し中3日症状なしの場合、あるいは5日目のPCR陰性の場合）
- ④ 4日（医療スタッフ限定。結果責任は各事業者が負う。無症状あるいは翌日解熱の場合、中3日経てば解除オーケー）

しかし、感染研は、オミクロン株は従来変異株よりも、ウイルスを排出期間が長いというデータも出している

オミクロン株：発病から3～6日目がウイルス排出量が最大

22年1月5日 国立感染症研究所第1報

[\(SARS-CoV-2 B.1.1.529系統 \(オミクロン株\) 感染による新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査 \(第1報\) : 感染性持続期間の検討 \(niid.go.jp\) \)](#)

オミクロン株感染者からのウイルス排出ピークは感染から3～6日目。

このデータを受けた論説がNature Medicineに掲載された：

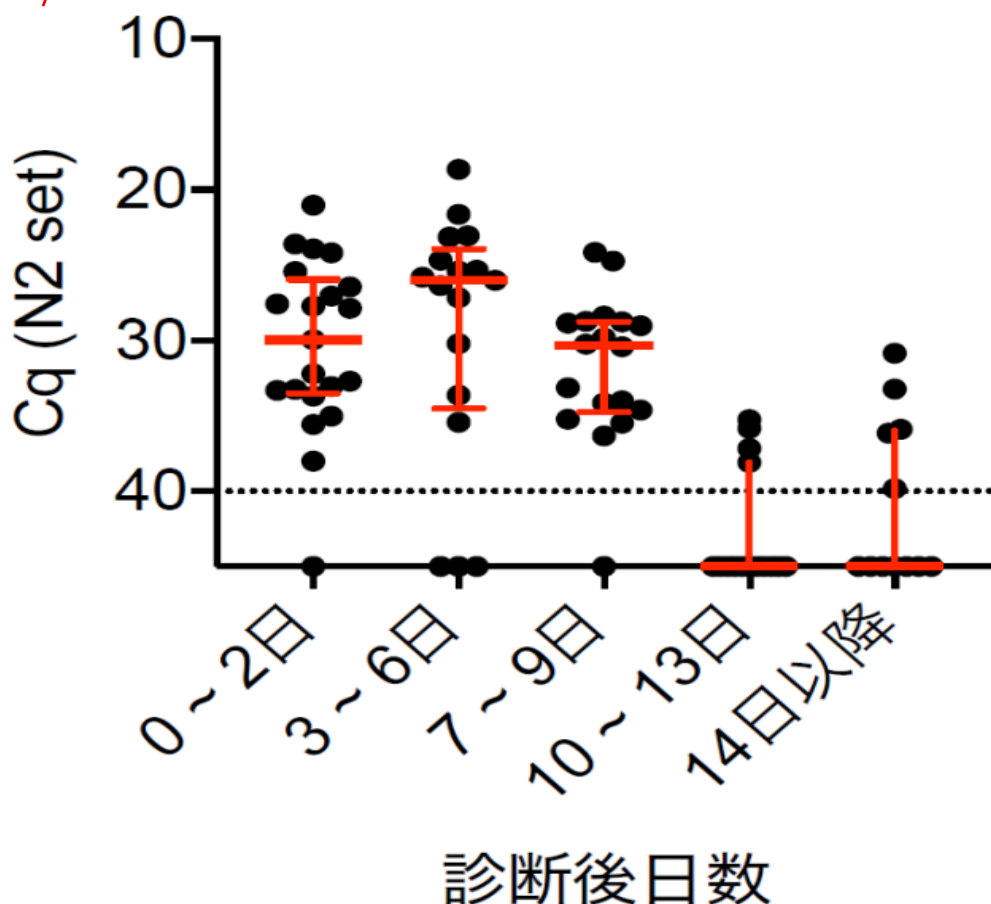
要旨：従来の変異株では、発病の2日前から発病の3日後までが、ウイルス排出のピークだった。つまり発病の前後2～3日が最もウイルス排出量が多かった。しかし、日本のデータでは、オミクロン株感染によるウイルス排出のピークは、従来の変異株よりも2～3日遅いという結果が出た。(He X, Lau EHY, Wu P, et al. Temporal dynamics in viral shedding and transmissibility of covid-19. Nat Med2020;26:672-5. doi:10.1038/s41591-020-0869-5 pmid:32296168)。

Cq値＝いわゆるCt値（PCR陽性となるまでの増幅回数）：ウイルス量が多いほど低値となる。3～6日目がウイルス量最大



とすれば、発病後4～5日で隔離解除という基準はまずいのでは？

オミクロン株感染者
診断後日数別PCR結果



オミクロン株感染者
発症後日数別PCR結果

